第17回外国人留学生
作文コンテスト入賞作品集

香川県留学生等国際交流連絡協議会

-目　　次-

【 優 秀 賞 】

○「コロナ禍を体験して...」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.2 ～ 3
香川高等専門学校　建築環境工学科　Batmunkh Enkh Orgil（モンゴル）

【高松キワニスクラブ会長賞】

○「協力して未来の自然を守るぞ！」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.5 ～ 6
穴吹ビジネスカレッジ　国際ビジネス学科　NGUYEN THI MEN（ベトナム）

【 佳　　作 】

○「時代の流れに直面する私たち」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.8 ～ 9
香川大学 経済学部・経済学科・グローバル社会経済コース　張　徳陽（中国）
○「細やかな幸せを知る」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.10 ～ 11
香川短期大学 経営情報科 情報ビジネスコース NGUYEN THI RUYEN（ベトナム）
○「春を待っている」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.12
香川大学 経済学部　朱　玲（中国）
○「これから香川でちょうせんしたいこと」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.13
香川大学 留学生センター　Gebretsadik Kifle Hailu（エチオピア）
○「新しい生活様式」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.14
穴吹ビジネスカレッジ 国際ビジネス学科　KARKI GAURI（ネパール）

【審査委員特別賞】

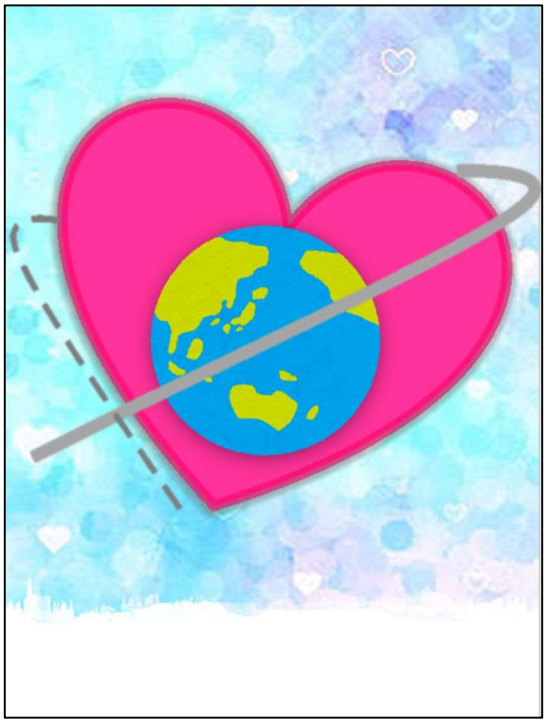
○「コロナを乗り越える夢」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.16 ～ 17
香川大学 農学研究科　NURFACHRI NISRINA（インドネシア）

審査委員

◆　塩井　実香　　香川大学インターナショナルオフィス准教授
◆　齊藤　学　　四国学院大学総合教育研究センター准教授
◆　畑　　ゆかり　　穴吹ビジネスカレッジ教務部部長

第 17 回外国人留学生作文コンテスト

優　秀　賞



コロナ禍を体験して

香川高等専門学校　建築環境工学科　Batmunkh Enkh Orgil

人類は見えざる敵に立ち向かって一年になろうとしています。私たちは、急速に発展する技術とテクノロジーのおかげで、お金さえあれば飛行機や新幹線などで行きたいところに短時間で行けるようになりました。しかし、人の移動が容易になったことは、瞬く間にウイルスの感染が広がる大きな原因となってしまいました。この一年間で、ウイルスに感染したことによる健康被害に悩む人や経済活動の低迷で生活が困った人は数多くいます。私の友人にも、専門学校を卒業し、賃貸契約が終了となった後に帰国の目途が立たなくなり、知り合いを頼んで５ヶ月間転々とした人がいます。また、アルバイトがなくなり、学費の支払いの見通しが立たず苦労している人がいます。私の場合、感染拡大を防ぐために外出自粛し、当初予定していたモンゴルへの帰国が不可能になりました。感染のリスクを低減するために、授業も四ヶ月間オンラインになりました。そこで、コロナ禍の中、自分が外出自粛を体験した留学生活とそれによって考えたことについて、皆さんに伝えたいと思います。

モンゴルの友達や家族との連絡は自粛時にも以前と同じようにオンライン上で行っていますが、日本人との距離は以前より遠くなった気がします。それは、感染症予防のためソーシャルディスタンスを保つようになり、日本人と話す機会が急激に減ったからです。せっかく日本に留学しているのに、日本の文化に触れられず、ずっと部屋の中で生活するのがとても残念で孤独でした。コロナ禍以前は、みんなで締め切りが迫っている課題をしたり、だれかの冗談に爆笑したりしていました。ところが、クラスの楽しい雰囲気はなくなり、自分が授業を理解できているかどうかさえ分からなくなりました。そこで、私はクラスメイトと一緒に授業を受けることで彼らからやる気を貰っていたことに気づきました。

また、オンライン授業では良い点と悪い点がありました。オンライン授業には人との接触を減らし、感染のリスクを下げるなどメリットがあります。その中で留学生にとって一番大きいのが、配信された動画を繰り返し見ることができることです。日本語の分からない専門用語が出てくると、「先生、ちょっと待って！」と言って動画を停止し、検索することができます。ところが、ずっとノートパソコンに向かって座っているため、運動不足で肩凝りになり、視力が弱くなってしまいました。また、勉強をする時間を簡単に奪う SNS やユーチューブなどがワンクリックしか離れていない状況になると、インターネットと仲良くなりすぎて、私はそれに夢中になりました。ダラダラした日が何日も続いたため、私はそこで「もう十分です。」と区切りをつけ、食事、運動、授業、睡眠と時間をはっきり分けるようにしました。計画を立て、それを可視化したのです。おかげで、自分を律することができるようになりました。このように突然始まった新しい生活様式は精神的にも、肉体的にも健康を保つのが困難でしたが、それに適する生活習慣をある程度身につけていくことで、有意義な時間を過ごすことができるようになったのです。さらに付け加えて言うと、食事の時間の大切さに気づかされました。共に食べる人がいることの安心感や会話の楽しさなどが美味しいという満足感につながっていたのです。食事をするときの雑談では共感が生まれ、人生を豊かにしていたと思います。

話は変わりますがコロナ禍になり、アメリカやヨーロッパでアジア系住民への差別の事件が相次いでニュースとなりました。皆さん覚えていますか。一時期、どこのお店でもマスクとトイレットペーパーが売れ切れていたことを。ちょうどその頃、私もマスクを探し

に最寄りの大きなスーパーへ行ったことがあります。店員さんにマスクが倉庫にあるか尋ねると、「もしかしたら、中国人ですか？」と嫌な目付きで聞かれました。その時、何と答えたかは覚えていませんが、アメリカやヨーロッパに暮らしているアジア系の人たちの不快な気持ちが少し理解できました。日本に来て４年目の私は、これまで差別を受けたことがありません。でも、このときだけは、国籍で人を差別する現実があることを知ったのです。出身国と暮らしている国の歴史的・文化的背景によりますが、良いことがあれば褒められ、悪いことがあれば責めらるのは仕方がないことです。しかし、国籍で人を差別し、感染を責める雰囲気が広がれば感染を隠すことにつながると思います。

コロナ禍は当たり前だと思っていた人との関わりやコミュニケーションなど、今まで気に留めていなかったことがとても重要だと教えてくれました。改めて、一定の生活リズムを保つことの重要性も感じました。誰も体験したことのないことなので、困ることも多いですが、みんなでそれに対応していかなければならないと感じました。人生に自分がコントロールができないことがたくさん出てきても、どんな風に対応するかは私たち次第でしょう。そして、コロナウイルスは誰もが感染する可能性があります。手洗いとソーシャルディスタンスを保つことは大事です。それと同じように、多様な人やコミュニティを受け入れて、感染したことを責めない雰囲気を作ることもまた、感染の拡大を防止する重要なポイントだと思います。

最後になりましたが、オンライン授業の内容がわからないとき教えてくれたクラスメート、モンゴルの状況や家族を心配してくれた友達、「困りごとはありますか？」と聞いて相談に乗ってくださる先生や寮母さんが心を支えてくれました。コロナ禍にも関わらず奨学金を給付し続けてくださる日本政府、オンライン授業になっても留学生として特別扱いで滞在させてくれた学校にありがたい気持ちで一杯です。厳しい状況が今も続いていますが、日本に心から感謝しています。

第 17 回外国人留学生作文コンテスト

高松キワニスクラブ会長賞

協力して未来の自然を守るぞ！

穴吹ビジネスカレッジ　国際ビジネス学科　NGUYEN THI MEN

私は日本に来て２年くらいです。なぜ日本を選んだかというと、高校生の頃、テレビで美しい日本を見たからです。きれいに咲く桜と清潔な道路がある日本に、すっかり魅了されました。

留学生として日本に来られるという夢が実現したときは、本当に嬉しかったです。直接自分の目で見た日本は想像を超えて美しくて、深く感動しました。自然に恵まれた景色ときれいな空気、そして四季がある日本には誰もが住みたいと思うはずです。私は一人の外国人留学生にすぎませんが、日本の自然をとても気に入り、未来の自然を守っていくお手伝いをしたいと思いました。しかし、自然を守ると言っても、私にできることはあるのでしょうか。

日本は清潔、エコ、緑の国と言われています。なぜなら、日本は自然を守るための対策を実行しているからです。初めて日本に来たとき、驚いたことがあります。それはゴミの分別です。私の国ではそのようなことはしていませんでした。自然を守るためにはまず、正しいゴミの分別とゴミの処理をする必要があります。分別するとリサイクルや再利用をすることができ、ゴミの量が減らせます。日本では何十年も前からゴミ問題の改善に取り組んでいて、国民の意識も変わってきているので、きれいな日本が維持されているのだろうと思います。

もちろん、日本だけでなく世界各国で自然を守ることが必要です。そのためにはまず、自然を壊す原因を理解しなければなりません。私は、経済が発展するにつれて私たちの生活の仕方が大きく変わっていくことが、環境汚染を悪化させていく原因の一つだと思っています。工業化が進むと、工場や機械も増加し、経済は発展しますが、一方で産業廃棄物、廃液、排気ガスなどの増加が環境汚染を引き起こすと考えています。

では、環境汚染が進むとどうなるのでしょうか。私の出身国はベトナムです。現在、ベトナムは工業をはじめ、様々な産業が急速に発展していると言われています。家庭ゴミや産業廃棄物などが急増しているにもかかわらず、残念なことにゴミ処理がまだ追いついていないので、環境が悪くなる一方なのです。

ベトナムには自然のままの熱帯雨林が残っていますが、人間のせいで、無責任な森林伐採が止まりません。その行為はやがてオゾン層の破壊につながり、地球温暖化を進め、海面上昇を引き起こすと考えられています。それにより、自然災害が起こりやすくなっています。そして、とうとう 2020 年 10 月、大きな洪水災害を招きました。人、家、農地、家畜など大切な命と財産がすべて流されましたが、その原因は環境汚染にほかなりません。

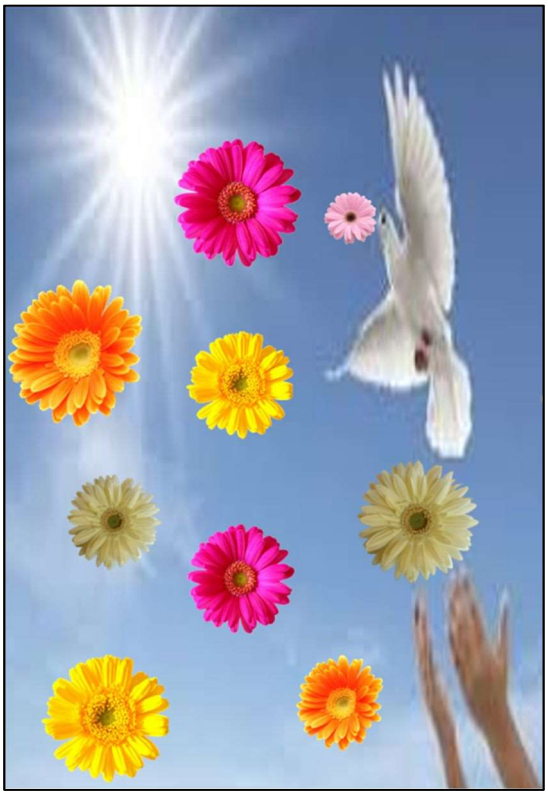
この大洪水をきっかけに、さらに地球環境を守ろうという意識が強くなりました。自分にできることを今すぐ始めなければなりません。今、私は日本に住んでいるので、まずは身の回りのことを考えました。それはきちんとゴミの分別をするということです。日本を愛している私は、これからもきちんとゴミを分別するようにします。そして買い物に行くとき、マイバッグを必ず持って出かけます。たくさん買い物すると、たくさんのビニール袋を使うことになり、ゴミもいっぱいになりますので、一つマイバッグを持っていたら、十分だと思います。

10 月には「高松クリーンデー」に参加しました。その日は私にとって、とても有意義な日でした。爽やかな秋空の下、高松の人とゴミを拾って、サンポート周辺をきれいにしました。「環境保全」という大きなことではないけれども、地元の人の役に立つことができて、嬉しいものがありました。

私は普通の留学生なので、偉いことはできませんが、できることがあれば、やりたい人です。「未来の自然を守る」ことは個人の責任ではなく、全人類が協力して行動しないといけないことです。一人でするのは無理でも、大勢の人が協力すれば、必ず良い結果になるはずです。自分の健康を守るように、地球の健康を守るために共に頑張りましょう。

第 17 回外国人留学生作文コンテスト

佳　　作



時代の流れに直面する私たち

香川大学　経済学部　張　徳陽

今年の一月から、コロナ禍で世界間の通行も一時的に停止した。全世界にとっても大きな挑戦であり、最小限の代価でコロナを抑えることが第一位にある課題になる。ワクチンの開発や医療用品の生産も日々止まずに進んでいる。私たちの留学生活には、具体的にどのような変化が起きるのか？自炊することで料理の腕が上がったり、オンラインで勉強を進むことで毎日パソコンに充電する回数が多くなったり、一限目の授業であっても学校に行かなくてもいいから二度寝をしたりするなど、生活技能から習慣まで、色々な新しい生活様式が現れた。その中で、私が感じている最大の変化は、オンライン授業のことである。

「授業」というと、同じ教室に数十人の生徒が集まり、先生と向かい合って講義を聞くのが一般像である。感染症対策の一環として、登校することはほぼ不可能になってしまった。学校側もより安全な方法を採用して遠隔授業にするつもりだった。最初にオンライン授業の話を聞いたときは、期待と好奇心でいっぱいだった。遠隔授業でどんな新しい体験ができるのか楽しみにしていた。その一方で、心配も当然存在した。新しい大学生活に適応できず、成績の面も友達に追い越されてしまうのではないかという不安があった。結果として学校では何回かの会議をへてオンラインという形が決められた。これで、実際に学校に行かなくても学期の内容を進められるようになった。顔と声は出さなくても授業に参加できる。グループワークの時もカメラオフのままで無事に進んでいった。通常のグループワークまたはディスカッションは外向的な人にとって自分をアピールする絶好の機会になるが、私のような内向的なものにとっては、大変な挑戦だった。今回は声だけで遠慮せず自分の意見をどんどん出せることができた。

高度情報化発展とともに遠隔授業は可能となった。20 年前の 2000 年であっても、オンラインで授業するのは信じられないようなことであろう。停電などの事故が起きると学校は休みとなるのが普通であろう。また、多くの人々は自分の生活を細かく考えてコロナが流行った後、ネットショッピングの頻度は爆発的な増長があった。もちろんこれも高度情報化発展のおかげである。

しかし、伝統的な方式が失われるデメリットは、ないのだろうか。私の観点からはそうではないと思う。自制心の乏しい学生にとって、オンライン授業は退屈で自分をコントロールできないかもしれない。例えば授業中にゲームをしたり、勉強とまったく関係ないことをしたりする傾向がある。感情的に物の足りないことはオンライン授業の内在的な欠陥であり、学習の雰囲気を欠くから学生がお互いに学び合い、共に進歩していくことも難しくなる。学生たちが教師と接することはズームのチャットに限られて学生たちの理解度を教師は把握しにくい。これまでのように、学生に個別指導をする、または課題に励ましの言葉を書くことなどもオンラインにするとともに難しくなる。以前、小学校の校長先生が卒業式でみんなの卒業証書に子どもたち一人一人の性格または特長を書いて配ったという

記事を読んだ。オンライン授業が何年後かに主流となると、このようなことは完全に消えてしまうかもしれない。

オンライン授業の問題を克服するために、学生の自制心を養わなければいけない。自分が学生という身分をはっきり意識すれば、将来新型コロナウイルスが大部収まって学校に戻った時，それほどのショックを受けないことを確信できる。世の中の物事はほとんど表裏一体である。挑戦の反面は機会であり、研究者やソフトウェア開発関係者は一日でも早く情報を高速化して教育の質を増強する一方、学生たちにセキュリティ教育を普及するいいチャンスだと思う。情報管理への関心を高め、自分の個人情報を守って他人に漏らさないように心付ける。また、他人のプライバシーを尊重する健全な性格を育成することもできると思う。コロナが初めて流行った頃、ネット上では真偽が不明なニュースが多く混在していた。事例で説明すれば「日本のトイレットペーパーは輸入依頼品なので早く買わないとなくなる」というニュースが一時的に流れ、スーパーやコンビニのトイレットペーパーも一瞬に買われた。しかし、実は愛媛県に大手の地元ペーパー企業があり、香川県で生活している私たちは心配する理由は少ないと思う。

このような真の情報と偽の情報を正しく区別する方法も、大学生としての私たちにとって不可欠な能力である。悪質なフェークニュースを発見した場合は、それを簡単に信じたり、簡単に広めたりしないようにする必要もある。これらのことによって、私たちの留学生活は単なる教養知識や専門知識の詰め込みではなく、有能な社会人への成長にもつながっていくと思われる。

教育の未来を見据えて、「オンライン」という形は今後社会の主流になる可能性は極めて高いと考えている。オンラインの普及につれて、日本の GIGA スクール計画が順調に進んでいて加速化になる傾向が見られる。また、オンライン授業に限らず、オンライン留学とかオンライン海外旅行などは実際本地に行かなくても実現できる、視野を広げて知識を高める貴重な機会になるであろう。

コロナは紛れもなく全人類にとっての危機であり、電光石火の勢いで各界に影響を与えてしまった。「人類は強く見えても、実際は自然の前では塵のように小さい」ことを改めて世界に知らしめている。 私たちは自然を恐れ、自然と共生していかなければならない。グローバル化の今日、コロナウイルスのような全人類の課題に面した時、偏見やイデオロギーの対立を捨てて力を合わせて困難を乗り越えようではないか？私たち人類は今の危機を乗り越えることで、より大きな生命力を爆発させていくと信じている。

細やかな幸せを知る

香川短期大学　経営情報学科　NGUYEN THI RUYEN

4 月に香川県の宇多津町へ引っ越してから、大学生としての新しい留学生の生活が始まりました。今年はコロナウイルスが広がったことで、困ることがいっぱいあります。でも、良くないことの中にもたくさん良いことができました。「今、生きていることができるなら、幸せなことで、今日が最後の日かもしれないから、できることをしなければならない」と考えることを知りました。この言葉を生かして、私は毎日できるだけ自分も周りの人たちと楽しく過ごしたいと思っています。

4 月に寮に入るお金がなかった私は寮をでなければならないと思っていましたが、寮の大家さんが了解してくれて、寮に住むことができました。本当にありがたい気持ちになりました。ですから、私は早く新しいアルバイトを探して、お金を払わなければならないと思いました。しかし、コロナの影響でなかなか採用されませんでした。すごく心配でしたが、この言葉を思い出して、頑張ることができました。宇多津町では朝早く起きて、近くの海や山に行くことが私の習慣になりました。このおかげで、たくさん日本人と知り合いになりました。それから、日本のこともだんだん分かってきました。山に登るとき、出会った人に笑顔で挨拶したら、相手から返事をもらうことは私の喜びです。自然の中を歩くと、鳥の声が聞こえるし、新鮮な空気を感じることもできます。今、コロナへの感染を防ぐためにマスクをして、他の人との距離を開けないといけません。しかし、山の中は人が少なくてマスクをしなくてもいいので、毎日続けることができました。今は、お金がないから、どうしようかと思いましたが、山で食べられる草を取ることで、食事の問題は解決することができました。昔の人が山で生活していたことも勉強になりました。そして、大家さんから許可をもらって、小さな畑をしています。植物も頑張っている気持ちが分かって、私ももっと頑張らなければならないと思っています。

勉強することでも色々な経験ができました。授業は携帯で参加することになった時もありました。設定することと使い方がまだ分からないとき、香川短期大学の先生方がたくさん教えてくれました。そして、今働いているアルバイト先も先生たちから紹介していただき、慣れるまで気をかけてくれました。本当にいい縁があったと思います。自分で仏教のことを調べることをして、担当の先生から日本の文化を習うことで、ベトナムと日本の共有点がたくさんあることを分かりました。今は日本のことをもっと勉強したいと思います。また、仏教の教えを知った後、私の知識もだんだん変わりました。自分のことも信じて、周りの人のことも自分のことのように思って、相手を良くない見方しないようにしています。批判したら、いつか私も同じことをされるという経験があるからです。良い考え方をすれば、良い行動ができ、良い結果が得られると知って以来、私は毎日楽しく過ごしています。

最近、将来のことを心配する私に先生が「為せば成る、為さねば成らぬ」の意味を説明くれました。この言葉は私の心を支えています。「一期一会のえにし」、誰でも、どんなことでも私が出会うこととには縁があります。だから、いい縁を作ろうと私の担当の先生から教えてもらいました。たくさんいい言葉を勉強することができましたが、時々生活の中で忘れてしまうことがあります。幸せに生活できるために一生懸命働くことをお祈りした

ことを忘れず、勉強したことはよく練習しなければならないと思っています。現実になってほしい言葉を覚えているようにもしています。

新しい知識を得たことで、新しい生活ができています。私は今生きていることが本当に幸せです。何でも楽しみたいと思っています。みんなが一人一人元気で幸せな生活ができるなら、新しい生活様式の中でも世界は平和に美しくなると信じています。

春を待っている

香川大学　経済学部　　朱　玲

普通の日曜日。天気がいい。中央公園の芝生に寝そべって、今日の空はいつもよりきれいだな。前回こんなに公園でのんびりしたのはいつだっけ？思い出せなかった。イヤホンから「雨降る日があるから虹が出る　苦しみぬくから強くなる」……

去年の年末に急にコロナウイルスによって人々に感染する新型肺炎が流行ってきてしまった。その影響で人々の生活は大きく変わり、私の留学生活も憧れていたのと全く違ってしまった。色々な国の友達を作って、その国々の料理を食べたり、週末友達と一緒に日本の魅力を体験したり……コロナ禍でそれらは全部できなかった。逆に三密を避けることに基づいて、県外へ行けず、外食をできるだけ避け、授業さえオンラインになった。

コロナが最初に大規模に流行ったのは中国の武漢だった。そのころコンビニでバイトしていたときよく聞かれた。いつ日本へきたのか？　最近帰ったことがあるか？　また、中国人の友達と商店街を歩きながら楽しいことをシェアしているとき、隣のおばあさんが私たちの声を聞くが早いかマスクをつけるようになった。学校でクラスメートが冗談に便乗して、中国人が危ないと言った。最も不思議だったのはスーパでバイトする時先輩がお客さんに呼ばれて行って、「あの人は中国人ですか？最近中国に帰ったことがありますか？みんなの不安を起こさないためにしばらくレジをしないほうがいい」などと言われたことだ。私がきっと怒ったと思う？　いいえ、そんなことない。自分の健康、命が大切で、それらを一番に守る気持ちを理解できないわけではない。

マスクが非常に不足していた四月のある日曜日。家から近い薬局でマスクを売っていると聞いた。薬局は９時から営業を始めるが、ちょっと早めに行ったほうがいいと思って、７時ぐらいに行って、目の前の光景に驚いた。日本であんなに長い行列が並んでいるのは初めて見た。朝５時からの人が何人もいた。私が中国人であることをみんなに知られたくなく、友達の電話も拒否してずっと黙っていた。しかし、急に後ろのおばあさんから「何時に営業始めますか」と質問され、え？　どうしよう？　誰が答えくれるかな？……何秒か後に、前のお姉さんが答えてくれて、本当にほっとした。たぶん時間を潰すためその二人は私を挟んで楽しく話しはじめて、そのまま何分か過ごし、しばらくして私のことに気づいた。「日本の生活に慣れました？」、「しばらく国へ帰れなくて、寂しいよね」、「親友は大丈夫ですか？　心配だよね」とか日常的な話をはじめ、結局、下手な日本語で親切な二人と楽しく１時間を過ごした。会話内容も簡単だし、非常に普通の雑談だけど、私にとってはあの暖かい気持ちは今まで頭に残っている。

コロナ禍で私たちは異国にいて会いたい人と会えず、ふるさとの懐かしい匂いも感じられない。でも、ひとりひとりの笑顔があるからこそ、異国での孤独感を薄くすることができている。日本のことや、ここの暖かく親切な人々がますます好きになった。

ウイルスは国籍がなく、世界の災難で人々も被害者だと思う。ウイルスがいる曇り空の下にいる普通の私たちが相互に暖かく励ましあったら、日差しが入り込んでくるかな。雨がやまないわけではない、虹が出ると信じている。希望が満ちあふれた春を待っている。世界の人たちも。

これから香川でちょうせんしたいこと

香川大学　留学生センター　Gebretsadik Kifle Hailu

グローバリゼーションでせかいはよりせまくなりそうです。それで、留学は、留学生の間でこうとう教育のためのますます人気のあるせんたくしになっています。家から何千マイルもはなれたばしょで、きほんてきに知っている人がほとんどいないか、全く知らないばしょにいどうすることはこんなんです。しかし、これは私にとってしょうがいのけいけんになるでしょう。

私は、２０２０年４月５日に日本へ来る予定でした。しかし、コロナのせいで予定は２０２０年１０月１５日にえんきされました。その間私はかぞくといっしょに動物のしいくをおこなったり、本を読んだりしてすごしました。コロナで予定がかわってざんねんでしたが、ようやく日本へ来ることができました。その当時私はあたまがいたかったため、もしかするとコロナウイルスにかかっているかもしれないというしんぱいもありましたが、コロナウイルスのけんさではいじょうなく、ぶじに日本に来ることができてよかったです。しかし、日本についたとたんホテルへ行かされて二週間かくりされなければなりませんでした。かくりの時そとへ出かけることができず、また、じゅぎょうもあまりなかったのでねているばかりでした。私はそんなじょうきょうのなかでもしんしんのけんこうをたもつために、本を読んだり、いのったり、へやの中でうんどうしたりしてすごしました。かくりは私に自由とお出かけできることのかちを教えてくれました。

日本へ来る前に聞いたことによると、日本人はもっともしんせつで、思いやりがあり、強いかぞくのきずながあります。これは本当です。私がじっさいに会った日本人を見てもそうだと思います。それにくわえて、都市のせいけつさ、みりょくてきなばしょ、外国人にたいする日本人のれいぎただしさ、そして彼らがものごとをじゅんびするためにどのようにけんめいに働くかを見ました。また、日本ではあんぜんせいとあんしんさはさいこうです。私は自由に歩きまわれるようになりました。これだけじゃなくて、日本で生まれたとくべつな食べ物、たとえばうどん、おにぎり、たこやきなども食べて楽しんでいます。今ものごとはおもしろくなり始めました。毎日が新しく、おもしろくてたくさんのけいけんができます。

コロナウイルスのじょうきょうがもう少しよくなったら、さまざまなみんぞくてきはいけいを持つ海外の学生といっしょに、たくさんの文化的な生活とべんきょうをすることができます。大学のさまざまなクラブで楽しみ、せっきょくてきに参加します。もし、何かイベントや活動にさんかするきかいがあれば、私の学校生活はよりじゅうじつして、たのしいものとなるでしょう。学生たちや先生方といっしょにこうりゅうを多くすることで、私の国と日本はこれからより強いかんけいになると思います。

ある日、エチオピアにある日本大使館から、なぜ日本語を勉強しているのかと聞かれました。私の答えは、日本語は私の将来に関係するかもしれないということでした。じっさい、国費留学生になるためには、日本語がとてもじゅうようになりました。これからも、私はせんこうだけではなく、日本語もいっしょけんめい勉強してりゅうちょうにはなせるようになりたいです。

新しい生活様式

穴吹ビジネスカレッジ　国際ビジネス学科　KARKI GAURI

私は3年前から留学生として、日本に住んでいますが、2020年は予想できないことがたくさんあった1年でした。それは新型コロナウイルスの流行があったからです。世界のほぼすべての地域に広がって、今も感染者数は増える一方です。

日本で最初に報告されたのは、2020年1月16日だそうです。そのころ私は沖縄の日本語学校にいましたが、こんなに広がるとは思っていませんでした。その後、高松の専門学校に入学が決まって、知らない町で生活するぞというわくわくした気持ちでしたが、コロナウイルスのせいで、いろいろな問題が出てきました。

まず、入学式ができませんでした。授業もオンラインだったので、新しい友達にも会えなくて、さびしかったです。そしてアルバイトの時間もだんだん短くなり、他の仕事を探しても見つからなかったのが一番困りました。でも、そんなとき、当時の安倍首相から10万円の給付金をいただきました。みんな「安倍さんの10万円！」と言って、とても喜びました。私もそれで生活ができたので、本当にありがたかったです。

やがて授業が再開して、毎日学校に行くことができるようになりました。私の国ではロックダウンをしていますが、日本はそうではなくて、コロナウイルスとともに生活をして、経済を止めないようにしています。だから、気をつけながら生活をしなければなりません。ウイルスの拡散を防ぐための「新しい生活様式」が始まりました。

学校に着いたら、まず手の消毒をして、先生が熱をはかってくれます。机と机の間隔をあけるので、教室も一番広い部屋を使っています。教室はいつも窓が開けてあります。私たちは暑い夏でもマスクをして勉強したり、アルバイトをしたりしています。話しにくいし、日本人が話していることがよくわからないし、マスクをする生活は本当につらいです。学校行事も何もなくて、さびしいです。でも、ほかの人たちも同じですから、私も自分自身とみんなを守るためにがんばっています。

そして、外からのウイルスを防ぐだけではなくて、ウイルスに勝つ体を作ることも必要だと思っています。まだワクチンができるかどうかわかりませんから、体の免疫レベルを高くしなければなりません。ウイルスに簡単に攻撃されないようにするには、どうすればいいと思いますか。

それは運動と食事です。私は毎朝、部屋で10分ぐらい呼吸を整えることを続けています。その後、毎日自転車で学校とアルバイト先を往復していますから、それもかなりの運動だと思います。休日には遠いところまでウォーキングもしています。そして、毎日自炊しています。気を付けていることは、野菜と肉をバランスよくとることです。私はネパール出身なので、カレーは得意料理です。特にカレーにはスパイスがたくさん使われていて、体にいいことはまちがいありません。子どものころから食べているので、知らないうちに免疫力も上がっているのではないでしょうか。母に感謝です。自炊は食費の節約にもなるし、体にもいいし、いいことばかりだと思います。

最後に、ウイルスに感染していることに気づいていない人は、自分の行動に注意を払う必要があります。早くみんながもとの生活に戻れることを祈ります。コロナに負けるな！

第 17 回外国人留学生作文コンテスト

審査委員特別賞

コロナを乗り越える夢

香川大学大学院　　NURFACHRI NISRINA

私には、数えきれないほどの夢がある。一つの大きな夢は、日本に進学することであった。２０２０年５月頃の私は、香川大学大学院農学研究科日本の食の安全特別コースを目指し、努力していた。一年間かけて、大学院の受験をするために、日本語を中心に様々なことを準備しなければならなかった。

しかし、進学準備の最中に、予測していなかったコロナウイルスが大幅に広がり、世界中で感染者数が急激に増加した。このウイルス感染拡大防止のため、今年５月から生活様式が大きく変わった。当時、私は、インドネシアのボゴール農業大学で研究をしていた。大学の政策により、研究や対面授業が全て禁止になってしまった。卒業試験を控えていた私は受験することができず、故郷に帰った。実家で論文を完成させ、6 月にオンライン卒業試験を受けた。8 月にようやく大学を卒業することができたので、嬉しかった。

嬉しさの反面、進学予定であった香川大学から連絡が来なくて不安になった。コロナの影響で、あちこちのテストや多くの留学プログラムが中止になってしまった。香川大学も新入生を受け入れるかどうか分からない状況であり、経済危機により奨学金がもらえない可能性もあった。その上、インドネシア会場の日本語能力試験が中止になり、大学院の入学要件である N4 資格が取れなかった。

同時に、日本のニュースで留学生が日本へ入国できないことが分かると、非常に不安だった。私は、一年間努力した計画が無駄になるかもしれないことが心配になり、極めて落ち込んでいた。これからの未来は暗くなると悲観的に思ってしまった。私にとって、留学の目的は教室で授業を受けるのみならず、異国での生活や異文化を体験することでもあった。オンライン化により、その貴重な体験ができなくなることが不安だった。

一方で､そのまま悩んでいると今までの努力と時間が無駄になるだろうと自分に言い聞かせていた。コロナ禍では時間に余裕ができ、自分自身で時間を作ることは容易であった。私は、悩む代わりに、明るい未来のために役立つことをすることにした。日本語能力試験においてレベル３を目標として、試験までの３ヶ月間、毎日早朝に起床し、一日に７時間ほど日本語を勉強した。勉強する中で解けない問題があれば、先生と日本人の友達に質問し、さらに理解を深めた。それで、私の意欲を高く維持することができた。それは、彼らがいつも詳しく教えてくれたおかげであった。

その他、コロナの影響で、全く外食をしなかったので、自炊した。そのおかげで、料理が得意になった。そして、4 年ぶりに長期間実家で家族と一緒に過ごせたことがありがたく感じた。

人生は、良い時も、朝が迎えられないほど悪い時もある。このコロナの時代で、困難な時が多数あるが、努力する理由を感じながら、少しずつ目標に向って前に踏み出していく。私の努力する理由は、自分の夢を追いかけるためである。私は１年前に香川大学農学部において約１か月の SS プログラムに参加して以来、日本文化と生活が好きになってきた。そのため、日本の大学院で勉強したい。そして、大学院のコースを修了したら、日本の食品企業で働きたい。

さらに、私を見守ってくれる人たちからの支援もあった。両親の話を聞けば聞くほど、心が暖かくなり、いつも頑張ろうという気持ちになった。日本語を教えてくれた先生や親友からの応援もかけがえのないものであった。

いつの間にか、4 か月が経ち、香川大学から「10 月に渡日できる」という連絡が来た。同時に、渡日の前に、NAT-TEST（日本語能力試験レベル 3 相当）を受けて、合格した。2 つの事実で涙がこぼれるほど幸せだった。長く苦しい時間の末、胸を張って、夢を叶えることができた。現在、大学院生として香川大学で勉強している。

未来は自分の想像通りではないかもしれないが、自分で選んだ道なので、夢を叶えるまで、何が起こっても諦めずに、戦い続ける。

第17回外国人留学生作文コンテスト入賞作品集
編集・発行　香川県留学生等国際交流協議会
デザイン案　三木高校インターンシップ生

【発行】令和3年1月
【問合先】香川大学国際グループ
〒760-8521香川県高松市幸町1番1号
TEL 087-832-1148
FAX 087-832-1192